医学博士のメディカル・コラム

病気が教えてくれるもの

第5回　夫婦文化の創造

「何だか最近身体の調子が悪くて…」「この頃、イライラして眠れない」などの症状を訴えて来院されるシニア世代の奥様。まずは「身体的に異常がないか?」を調べてみるが明らかな問題は見当たらない。で、いつから症状があるのかを探ってみると…。なんと「主人が定年でうちに居るようになってから」とか、「うちの人が、単身赴任から帰って来てから」という答えを聞くことが多い。

御主人が不在の間に"奥様文化"が確立し、広々と自由に展開していた日常生活に、突然、「空間占拠人」が出現し "文化破壊"を起こし始めると、もうリズムが合わなくて体調不良が出現するのだ。

退職後の夫のパターンには、(空気を読んで)趣味など外に居場所を求めるパターンと、家にこもりっきりのパターンがある。こもりっきりの場合は、いわゆる"仕事人間"で無趣味であった可能性が高く、"文化破壊度"がより大きくなる一方で、うつ病の発症など精神面にも配慮する必要が生じる。

この"夫婦冷戦"に至るには、様々な問題が絡んでいるが、前を向いて解決するには、お互いの思いを大変革する覚悟が必要だ。どちらか一方が悪いわけではなく、お互いに成すべき事を成してきただけなのだ。帰る家をずっと守ってくれた妻と、大黒柱として長年勤めあげてくれた夫。ああ、日本人のシニア夫妻よ!相手を失ったときに後悔するような夫婦文化で本当に良いのか?同じ体験をして感動を分かち合い、楽しい雰囲気を持続させるには、互いにそれなりの努力が必要だ。けれどその努力は"奥様文化の維持"やその"文化破壊"なんかよりも、ずっとずっと価値がある。

何故なら、それが「次世代への遺物」とすべき夫婦文化の創造につながるからだ。2人の関係をじっと見ている存在が居ることを忘れてはならない。

医学博士　木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。

きむら内科クリニック　TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15　きむら内科クリニック　麻生区　検索